



システムメッセージロギングの設定

この章では、Cisco NX-OS デバイス上でシステムメッセージロギングを設定する方法について説明します。

この章は、次の内容で構成されています。

- システムメッセージロギングの詳細, on page 1
- システムメッセージロギングの注意事項および制約事項 (3 ページ)
- システムメッセージロギングのデフォルト設定, on page 3
- システムメッセージロギングの設定 (4 ページ)
- システムメッセージロギングの設定確認, on page 18
- システムメッセージロギングの設定例 (19 ページ)
- その他の参考資料 (19 ページ)

システムメッセージロギングの詳細

システムメッセージロギングを使用して宛先を制御し、システムプロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログファイル、およびリモートシステム上の Syslog サーバへのロギングを設定できます。

システムメッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『[Cisco NX-OS System Messages Reference](#)』を参照してください。

デフォルトでは、デバイスはターミナルセッションにメッセージを出力し、ログファイルにシステムメッセージをログ記録します。

次の表に、システムメッセージで使用されている重大度を示します。重大度を設定する場合、システムはそのレベル以下のメッセージを出力します。

Table 1: システムメッセージの重大度

レベル	説明
0 : 緊急	システムが使用不可
1 : アラート	即時処理が必要

レベル	説明
2: クリティカル	クリティカル状態
3: エラー	エラー状態
4: 警告	警告状態
5: 通知	正常だが注意を要する状態
6: 情報	単なる情報メッセージ
7: デバッグ	デバッグ実行時にのみ表示

デバイスは重大度 0、1、または 2 のメッセージのうち、最新の 100 メッセージを NVRAM ログに記録します。NVRAM へのロギングは設定できません。

メッセージを生成したファシリティと重大度に基づいて記録するシステムメッセージを設定できます。

Syslogサーバ

syslog サーバは、syslog プロトコルに基づいてシステムメッセージを記録するリモートシステム上で動作します。IPv4 または IPv6 の Syslog サーバを最大 8 つ設定できます。

ファブリック内のすべてのスイッチで syslog サーバの同じ設定をサポートするために、Cisco Fabric Services (CFS) を使用して syslog サーバ設定を配布できます。



Note 最初のデバイス初期化時に、メッセージが syslog サーバに送信されるのは、ネットワークの初期化後です。

セキュアな Syslog サーバ

Cisco NX-OS リリース 9.2(1) 以降では、リモート ロギング サーバへのセキュアな TLS トランスポート接続をサポートするように Syslog サーバを設定できます。さらに、相互認証の設定によって NX-OS スイッチ (クライアント) のアイデンティティを強化することができます。NX-OS スイッチの場合、この機能は TLSv1.1 および TLSv1.2 をサポートします。

セキュアな Syslog サーバの機能では、デバイス認証および暗号化を提供するために TCP/TLS トランスポートおよびセキュリティプロトコルを使用します。この機能を使用すると、(クライアントとして機能している) Cisco NX-OS デバイスが、ロギングにセキュアな接続をサポートする (サーバとして機能している) リモート Syslog サーバに対してセキュアな暗号化されたアウトバウンド接続を確立できるようになります。認証と暗号化により、この機能では、セキュリティ保護されていないネットワーク上でもセキュアな通信を実現できます。

システムメッセージロギングの注意事項および制約事項

システムメッセージロギングには次の設定上の注意事項と制約事項があります。

- システムメッセージは、デフォルトでコンソールおよびログファイルに記録されます。
- syslog サーバに到達する前に出力されるシステムメッセージ（スーパーバイザアクティブメッセージやオンラインメッセージなど）は、syslog サーバに送信できません。
- Cisco NX-OS リリース 9.2(1) 以降では、リモートロギングサーバへのセキュアな TLS トランスポート接続をサポートするように Syslog サーバを設定できます。この機能は、TLSv1.1 および TLSv1.2 をサポートします。
- セキュアな syslog サーバがインバンド（非管理）インターフェイスを介して到達できるようにするには、CoPP プロファイルに調整が必要な場合があります。特に、複数のロギングサーバが設定されている場合、および短時間で多数の syslog が生成される場合（ブートアップや設定アプリケーションなど）。

システムメッセージロギングのデフォルト設定

次の表に、システムメッセージロギングパラメータのデフォルト設定を示します。

Table 2: デフォルトのシステムメッセージロギングパラメータ

パラメータ	デフォルト
コンソールロギング	重大度 2 でイネーブル
モニタロギング	重大度 5 でイネーブル
ログファイルロギング	重大度 5 のメッセージロギングがイネーブル
モジュールロギング	重大度 5 でイネーブル
ファシリティロギング	イネーブル
タイムスタンプ単位	秒
Syslog サーバロギング	ディセーブル
Syslog サーバ設定の配布	ディセーブル

システムメッセージロギングの設定



(注) この機能の Cisco NX-OS コマンドは、Cisco IOS のコマンドとは異なる場合があるので注意してください。

ターミナルセッションへのシステムメッセージロギングの設定

重大度に基づいて、コンソール、Telnet、および SSH セッションにメッセージを記録するようにデバイスを設定できます。

デフォルトでは、ターミナルセッションでロギングはイネーブルです。



Note コンソールのボーレートが 9600 ボー (デフォルト) の場合、現在の Critical (デフォルト) ログレベルが維持されます。コンソールログレベルを変更しようとする、必ずエラーメッセージが生成されます。ログレベルを上げる (Critical よりも上に) には、コンソールのボーレートを 38400 ボーに変更する必要があります。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	terminal monitor Example: switch# terminal monitor	デバイスがコンソールにメッセージを記録できるようにします。
ステップ 2	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します
ステップ 3	[no] logging console [severity-level] Example: switch(config)# logging console 3	指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをコンソールセッションに記録するように、デバイスを設定します。小さい値は、より高い重大度を示します。重大度は 0 ~ 7 の範囲です。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの2が使用されます。no オプションは、メッセージをコンソールにログするデバイスの機能をディセーブルにします。</p>
ステップ 4	(Optional) show logging console Example: <pre>switch(config)# show logging console</pre>	コンソールロギング設定を表示します。
ステップ 5	[no] logging monitor [severity-level] Example: <pre>switch(config)# logging monitor 3</pre>	<p>デバイスが指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをモニタに記録できるようにします。小さい値は、より高い重大度を示します。重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>設定は Telnet および SSH セッションに適用されます。</p> <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの2が使用されます。no オプションは、メッセージを Telnet および SSH セッションにログするデバイスの機能をディセーブルにします。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 6	(Optional) show logging monitor Example: switch(config)# show logging monitor	モニタ ロギング設定を表示します。
ステップ 7	[no] logging message interface type ethernet description Example: switch(config)# logging message interface type ethernet description	システム メッセージ ログ内で、物理的なイーサネット インターフェイスおよびサブインターフェイスに対して説明を追加できるようにします。この説明は、インターフェイスで設定された説明と同じものです。 no オプションは、物理イーサネット インターフェイスのシステム メッセージ ログ内のインターフェイス説明の印刷をディセーブルにします。
ステップ 8	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

Syslog メッセージの送信元 ID の設定

リモート syslog サーバに送信される syslog メッセージにホスト名、IP アドレス、またはテキスト文字列を付加するように Cisco NX-OS を設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	必須: logging origin-id {hostname ip ip-address string text-string} 例： switch(config)# logging origin-id string n9k-switch-abc	リモート syslog サーバに送信される syslog メッセージに追加するホスト名、IP アドレス、またはテキスト文字列を指定します。
ステップ 3	(任意) show logging origin-id 例：	リモート syslog サーバに送信される syslog メッセージに付加される、設定済

	コマンドまたはアクション	目的
	switch(config)# show logging origin-id Logging origin_id : enabled (string: n9k-switch-abc)	みのホスト名、IP アドレス、またはテキスト文字列を表示します。
ステップ 4	(任意) copy running-config startup-config 例 : switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ファイルへのシステムメッセージの記録

システムメッセージをファイルに記録するようにデバイスを設定できます。デフォルトでは、システムメッセージは /logflash/log/logfilename に記録されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します
ステップ 2	[no] logging logfile logfile-name severity-level [size bytes] 例 : switch(config)# logging logfile my_log 6	非永続的ログファイルパラメータを設定します。 <i>logfile-name</i> : システムメッセージの保存に使用するログファイルの名前を設定します。デフォルトのファイル名は「message」です。 <i>severity-level</i> : ログに記録する最小の重大度レベルを設定します。小さい値は、より高い重大度を示します。デフォルトは 5 です。範囲は 0 ~ 7 です。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>size bytes : オプションとして、最大ファイルサイズを指定します。範囲は 4096 ~ 4194304 バイトです。</p>
ステップ 3	logging event {link-status trunk-status} {enable default} 例 : <pre>switch(config)# logging event link-status default</pre>	インターフェイス イベントをロギングします。 <ul style="list-style-type: none"> • link-status : すべての UP/DOWN メッセージおよび CHANGE メッセージをログに記録します。 • trunk-status : すべてのトランク ステータス メッセージをロギングします。 • enable : ポート レベルのコンフィギュレーションを上書きしてロギングをイネーブルにするよう、指定します。 • default : ロギングが明示的に設定されていないインターフェイスで、デフォルトのロギング設定を使用するよう、指定します。
ステップ 4	(任意) show logging info 例 : <pre>switch(config)# show logging info</pre>	ロギング設定を表示します。
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

モジュールおよびファシリティメッセージのロギングの設定

モジュールおよびファシリティに基づいて記録するメッセージの重大度およびタイムスタンプの単位を設定できます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] logging module [severity-level] Example: <pre>switch(config)# logging module 3</pre>	<p>指定された重大度またはそれ以上の重大度であるモジュール ログ メッセージをイネーブルにします。重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの5が使用されます。no オプションを使用すると、モジュール ログ メッセージがディセーブルになります。</p>
ステップ 3	(Optional) show logging module Example: <pre>switch(config)# show logging module</pre>	モジュールロギング設定を表示します。
ステップ 4	[no] logging level facility severity-level Example: <pre>switch(config)# logging level aaa 2</pre>	<p>指定された重大度またはそれ以上の重大度である指定のファシリティからのロギングメッセージをイネーブルにします。重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告

	Command or Action	Purpose
		<ul style="list-style-type: none"> • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、all ファシリティを使用します。デフォルト値については、show logging level コマンドを参照してください。</p> <p>no オプションを使用すると、指定されたファシリティのロギング重大度がデフォルトのレベルにリセットされます。ファシリティおよび重大度を指定しなかった場合、すべてのファシリティがそれぞれのデフォルト重大度にリセットされます。</p>
ステップ 5	(Optional) show logging level [facility] Example: <pre>switch(config)# show logging level aaa</pre>	ファシリティごとに、ロギング レベル設定およびシステムのデフォルトレベルを表示します。ファシリティを指定しなかった場合は、すべてのファシリティのレベルが表示されます。
ステップ 6	(Optional) [no] logging level ethpm Example: <pre>switch(config)# logging level ethpm ? <0-7> 0-emg,1-ale,2-crit,3-err,4-warn,5-notif,6-inform,7-debug link-down Configure logging level for link down syslog messages link-up Configure logging level for link up syslog messages switch(config)#logging level ethpm link-down ? error ERRORS notif NOTICE (config)# logging level ethpm link-down error ? <CR> (config)# logging level ethpm link-down</pre>	レベル 3 のイーサネット ポート マネージャ リンクアップ/リンクダウン syslog メッセージのロギングを有効にします。 no オプションを使用すると、イーサネット ポート マネージャの syslog メッセージにデフォルトのロギング レベルが使用されます。

	Command or Action	Purpose
	<pre> notif ? <CR> switch(config)#logging level ethpm link-up ? error ERRORS notif NOTICE (config)# logging level ethpm link-up error ? <CR> (config)# logging level ethpm link-up notif ? <CR> </pre>	
ステップ 7	<p>[no] logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}</p> <p>Example:</p> <pre> switch(config)# logging timestamp milliseconds </pre>	<p>ロギング タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトでは、単位は秒です。</p> <p>Note このコマンドは、スイッチ内で保持されているログに適用されます。また、外部のロギングサーバには適用されません。</p>
ステップ 8	<p>(Optional) show logging timestamp</p> <p>Example:</p> <pre> switch(config)# show logging timestamp </pre>	<p>設定されたロギング タイムスタンプ単位を表示します。</p>
ステップ 9	<p>(Optional) copy running-config startup-config</p> <p>Example:</p> <pre> switch(config)# copy running-config startup-config </pre>	<p>実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。</p>

syslog サーバの設定

システムメッセージを記録する、リモートシステムを参照する syslog サーバを最大で 8 台設定できます。



Note シスコは、管理仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを使用するサーバとして、syslog サーバを設定することを推奨します。VRF の詳細情報については、『Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS ユニキャストルーティング設定ガイド』を参照してください。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] logging server host [severity-level [use-vrf vrf-name]] Example: <pre>switch(config)# logging server 192.0.2.253</pre> Example: <pre>switch(config)# logging server 2001::)db*::3 5 use-vrf red</pre>	<p>指定されたホスト名、あるいは IPv4 または IPv6 アドレスで Syslog サーバを設定します。 use-vrf キーワードを使用すると、メッセージロギングを特定の VRF に限定できます。重大度は 0 ~ 7 の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 緊急 • 1 : アラート • 2 : クリティカル • 3 : エラー • 4 : 警告 • 5 : 通知 • 6 : 情報 • 7 : デバッグ <p>デフォルトの発信ファシリティは local7 です。</p> <p>no オプションは、指定したホストのロギング サーバを削除します。</p> <p>この最初の例では、ファシリティ local 7 のすべてのメッセージを転送します。2 番目の例では、VRF red で重大度が 5 以下のメッセージを転送します。</p>
ステップ 3	Required: logging source-interface loopback virtual-interface Example: <pre>switch(config)# logging source-interface loopback 5</pre>	<p>リモート Syslog サーバの送信元インターフェイスをイネーブルにします。 virtual-interface 引数の範囲は 0 ~ 1023 です。</p>
ステップ 4	(Optional) show logging server Example: <pre>switch(config)# show logging server</pre>	Syslog サーバ設定を表示します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

セキュアな Syslog サーバの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] logging server host [severity-level [port port-number]][secure[trustpoint client-identity trustpoint-name]][use-vrf vrf-name]] 例： <pre>switch(config)# logging server 192.0.2.253 secure</pre> 例： <pre>switch(config)# logging server 2001::3 5 secure trustpoint client-identity myCA use-vrf red</pre>	指定されたホスト名、あるいは IPv4 または IPv6 アドレスで Syslog サーバを設定します。必要に応じて、CA によって署名されるクライアント アイデンティティ証明書をインストールし、trustpoint client-identity オプションを使用することで相互認証を適用できます。 セキュアな TLS 接続のデフォルト宛先ポートは 6514 です。
ステップ 3	(任意) logging source-interface interface name 例： <pre>switch(config)# logging source-interface lo0</pre>	リモート Syslog サーバの送信元インターフェイスをイネーブルにします。
ステップ 4	(任意) show logging server 例： <pre>switch(config)# show logging server</pre>	Syslog サーバ設定を表示します。secure オプションを設定する場合、出力のエントリにトランスポート情報が含まれるようになります。デフォルトでは、secure オプションが設定されていない場合、トランスポートは UDP です。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

CA 証明書の設定

セキュアな Syslog 機能のサポートには、トラストポイントの設定によってリモートサーバを認証する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します
ステップ 2	[no] crypto ca trustpoint trustpoint-name 例： switch(config)# crypto ca trustpoint winca switch(config-trustpoint)#	トラストポイントを設定します。 (注) トラストポイントの設定の前に ip domain-name を設定する必要があります。
ステップ 3	必須: crypto ca authenticate trustpoint-name 例： switch(config-trustpoint)# crypto ca authenticate winca	トラストポイントの CA 証明書を設定します。
ステップ 4	(任意) show crypto ca certificate 例： switch(config)# show crypto ca certificates	設定されている証明書/チェーンと、関連付けられているトラストポイントを表示します。
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	デバイスのリロード後にトラストポイントが持続されるように、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

CA 証明書の登録

NX-OS スイッチ（クライアント）が識別するようリモートサーバによって要求される相互認証では、ピア認証が必須であるため、これは証明書をスイッチに登録するための追加設定です。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します
ステップ 2	必須: crypto key generate rsa label key name exportable modules 2048 例： switch(config-trustpoint)# crypto key generate rsa label myKey exportable modulus 2048	RSA キー ペアを設定します。デフォルトでは、Cisco NX-OS ソフトウェアは 1024 ビットの RSA キーを作成します。
ステップ 3	[no] crypto ca trustpoint trustpoint-name 例： switch(config)# crypto ca trustpoint myCA switch(config-trustpoint)#	トラストポイントを設定します。 (注) トラストポイントの設定の前に ip domain-name を設定する必要があります。
ステップ 4	必須: rsa keypair key-name 例： switch(config-trustpoint)# rsa keypair myKey	トラストポイント CA に生成されたキーペアを関連付けます。
ステップ 5	crypto ca trustpoint trustpoint-name 例： switch(config)# crypto ca authenticate myCA	トラストポイントの CA 証明書を設定します。
ステップ 6	[no] crypto ca enroll trustpoint-name 例： switch(config)# crypto ca enroll myCA	CA に登録するスイッチのアイデンティティ証明書を生成します。
ステップ 7	crypto ca import trustpoint-name certificate 例： switch(config-trustpoint)# crypto ca import myCA certificate	CA によって署名されたアイデンティティ証明書をスイッチにインポートします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	(任意) show crypto ca certificates 例： switch# show crypto ca certificates	設定されている証明書またはチェーンと、関連付けられているトラストポイントを表示します。
ステップ 9	必須: copy running-config startup-config 例： switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

UNIX または Linux システムでの syslog サーバの設定

/etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、UNIX または Linux システム上に syslog サーバを設定できます。

```
facility.level <five tab characters> action
```

次の表に、設定可能な syslog フィールドを示します。

表 3: *syslog.conf* の *syslog* フィールド

フィールド	説明
Facility	メッセージの作成者。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0 ~ local7 です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。これらのファシリティ指定により、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。 (注) ローカルファシリティを使用する前に設定をチェックします。
Level	メッセージを記録する最小重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。none を使用するとファシリティをディセーブルにできます。
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前に @ 記号を加えたホスト名、ユーザをカンマで区切ったリスト、またはすべてのログインユーザを表すアスタリスク (*) を使用できます。

手順

ステップ 1 /etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、ファイル /var/log/myfile.log に local7 ファシリテイのデバッグ メッセージを記録します。

例：

```
debug.local7 var/log/myfile.log
```

ステップ 2 シェル プロンプトで次のコマンドを入力して、ログ ファイルを作成します。

例：

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 次のコマンドを入力して、システム メッセージ ロギング デーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

例：

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

ログ ファイルの表示およびクリア

ログ ファイルおよび NVRAM のメッセージを表示したり消去したりできます。

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	Required: show logging last number-lines Example: switch# show logging last 40	ロギング ファイルの最終行番号を表示します。最終行番号には 1 ~ 9999 を指定できます。
ステップ 2	show logging logfile duration hh:mm:ss Example: switch# show logging logfile duration 15:10:0	入力された時間内のタイム スタンプを持つログ ファイルのメッセージを表示します。
ステップ 3	show logging logfile last-index Example: switch# show logging logfile last-index	ログファイルの最後のメッセージのシーケンス番号を表示します。
ステップ 4	show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd hh:mm:ss]	入力されたスパン内にタイム スタンプがあるログ ファイルのメッセージを表示します。終了時間を入力しないと、現

	Command or Action	Purpose
	Example: <pre>switch# show logging logfile start-time 2013 oct 1 15:10:0</pre>	在の時間が使用されます。月の時間フィールドには3文字を、年と日の時間フィールドには数値を入力します。
ステップ 5	show logging logfile [start-seqn number] [end-seqn number] Example: <pre>switch# show logging logfile start-seqn 100 end-seqn 400</pre>	シーケンス番号の範囲内である、発生したメッセージを表示します。終了シーケンス番号を指定しなかった場合は、ログファイルの、開始番号から最後のメッセージまでのメッセージが表示されます。
ステップ 6	show logging nvram [last number-lines] Example: <pre>switch# show logging nvram last 10</pre>	NVRAMのメッセージを表示します。表示される行数を制限するには、表示する最終行番号を入力できます。最終行番号には1～100を指定できます。
ステップ 7	clear logging logfile [persistent] Example: <pre>switch# clear logging logfile</pre>	ログファイルの内容をクリアします。 persistent : 永続的な場所から、ログファイルの内容をクリアします。
ステップ 8	clear logging nvram Example: <pre>switch# clear logging nvram</pre>	NVRAMの記録されたメッセージをクリアします。

システムメッセージロギングの設定確認

システムメッセージロギングの設定情報を表示するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
show logging console	コンソールロギング設定を表示します。
show logging info	ロギング設定を表示します。
show logging last number-lines	ログファイルの末尾から指定行数を表示します。
show logging level [facility]	ファシリティロギング重大度設定を表示します。
show logging logfile duration hh:mm:ss	入力された時間内のタイムスタンプを持つログファイルのメッセージを表示します。
show logging logfile last-index	ログファイルの最後のメッセージのシーケンス番号を表示します。

コマンド	目的
show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd hh:mm:ss]	開始日時と終了日時に基づいてログファイルのメッセージを表示します。
show logging logfile [start-seqn number] [end-seqn number]	シーケンス番号の範囲内で発生したメッセージを表示します。終了シーケンス番号を含めない場合は、開始番号から最後のメッセージまで、ログファイルのメッセージが表示されます。
show logging module	モジュール ロギング設定を表示します。
show logging monitor	モニタ ロギング設定を表示します。
show logging nvram [last number-lines]	NVRAM ログのメッセージを表示します。
show logging origin-id	リモート syslog サーバに送信される syslog メッセージに付加される、設定済みのホスト名、IP アドレス、またはテキスト文字列を表示します。
show logging server	Syslog サーバ設定を表示します。
show logging timestamp	ロギング タイムスタンプ単位設定を表示します。

システムメッセージロギングの設定例

システムメッセージロギングのコンフィギュレーション例を示します。

```

configure terminal
logging console 3
logging monitor 3
logging logfile my_log 6
logging module 3
logging level aaa 2
logging timestamp milliseconds
logging server 172.28.254.253
logging server 172.28.254.254 5 facility local3
copy running-config startup-config

```

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
システムメッセージ	『Cisco NX-OS System Messages Reference』

